

グリーンニュース 第37号

発行年月日 平成 20年 9月 30日
発行責任者 群馬県環境アドバイザー連絡協議会
代表 鈴木 克彬

環境アドバイザー重点行動テーマ

行動する環境アドバイザー

・・・研修・情報交換の場を広く・・・



【早川淵（伊勢崎）彼岸花】

環境政策課からのお知らせ（2ページ）

デポジット 預かり金 制度（3ページ）

【専門部会】

高層湿原と地球温暖化

環境問題への対応は「自立と共生」よりも「自律と強制」が望ましい（4ページ）

温暖化・エネルギー部会の取り組み（5ページ）

【地域活動】

マイバッグ運動の行方（5ページ）

涼くなったら自転車はいかが？・南橋の自然観察と環境を守る会（6ページ）

2008年夏休み環境教室開催（7ページ）

私の環境出前講座を終わって・広報ア・ラ・カルト（8ページ）

県環境アドバイザー全体研修会（第1回）を開催（9/20土）

今日、テレビや新聞における報道や関連する書籍がはん濫し、地球温暖化が話題にならない日はありません。千年の気候も一日の気象から。日々の天気予報を皆さんにお伝えしているお天気キャスターが、報道現場から見た地球温暖化問題について語ります。

当日の様子については、次号でお伝えする予定です。

テーマ:「お天気キャスターから見た地球温暖化問題」

講師:岩谷忠幸氏 日本テレビ気象キャスター

(NPO気象キャスターネットワーク事務局長)

日時:平成20年9月20日(土)13:30~15:30

場所:群馬県庁2階ビジターセンター(前橋市大手町1-1-1)



今年もマイ・バッグ・キャンペーン始まりました! (9/1~11/30)

今年も9月1日から11月30日まで、県内の協賛店舗のご協力のもと、マイ・バッグ・キャンペーンを実施します。具体的には、キャンペーン期間中、協賛店舗でレジ袋を受け取らないで買い物をすることに応募カードに1回スタンプし、10回押印されたら抽選に応募できるというものです。キャンペーン終了後、抽選をおこない、賞品をプレゼントします。環境アドバイザーの皆さまにも、ぜひ積極的なご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

「ストップ温暖化! 県民アクション」について

地球温暖化防止につながる行動については、すでに熱心に取り組んでいる人もいらっしゃる一方で、頭では何となくわかっているにもかかわらず実際に何をすればよいかわからず行動につながっていない、というケースも多いようです。県では、温暖化防止の具体的な行動例を「県民アクション」としてまとめました。実際の行動例を知ることと、短期間(3日間)からでもまずは実際に行動することを呼びかけています。また、行動結果を報告してもらい、県ホームページ等で紹介するとともに、報告してもらった方の中から抽選でエコグッズをプレゼントすることも予定しています。

デポジット〈預かり金〉制度

ヨーロッパを旅して目に付くことは、デポジット〔預かり金〕制度が、一般国民の生活の隅々まで浸透していることである。今回は、その制度について紹介したい。

徹底実行しているのは、飲料水用のペットボトル、缶、紙パックへの実施である。デパート・スーパー・街の売店等どこで購入しても、飲料水代以外にデポジット料金25～30セント〔40円程度〕を自動的に支払う必要がある。ただ、このデポジット金は、使用済みの空びん、缶、紙パックをスーパー等のお店に持参すると、払い戻してくれる。このシステムは、環境先進国といわれるドイツだけでなく、ヨーロッパ各国で実施され、同じ国内であればどこのお店でも返金してくれる。そして資源の再使用・再利用を図るとともにポイ捨て防止に大きく役立っている。実際に最近のヨーロッパ各国では、ペットボトルや缶等のポイ捨てごみは見当たらなくなった。



その他のデポジット制としては、スーパーのカート〔手押し車〕がある。通常カートは、鎖に繋がれている。利用者は1ユーロ〔約150円〕硬貨を入れ、鎖をはずし使用する。そして使用後はカートを戻し、鎖を繋ぐと、使用前に入れた硬貨が返る仕組みである。実態として、消費者がカート整理を行っていた。

日本のJRにあたるドイツのDB〔ドイツバーン〕等、各国の鉄道の主要駅には、旅行者用の荷物を運ぶための運搬用カートが玄関やプラットホームに多数置いてある。これも鎖が付いており、硬貨を入れて使用する。勿論、使用後は一番近い指定の場所に返し、鎖を繋げば硬貨は戻ってくる。旅行者にとっては大変便利なシステムである。

デンマークのコペンハーゲンではレンタル自転車がこの仕組みであった。市内の125ヶ所に駐輪場があり、自転車が置いてある。繋がれている鎖部に20クローネ〔約300円〕硬貨を入れて自由に使用することが出来る。使用後は移動先の指定場所に自転車を返し、鎖を繋げば20クローネは返金される。要は運用管理まで考えたシステムである。

更にこのデポジット制は、ビヤガーデンのビールのジョッキでも行われている。ビール2ユーロ、ジョッキ2ユーロ計4ユーロを初めに払うのが一般的で、飲み終わった後ジョッキを戻せば2ユーロ返金される。勿論お代わりは、ジョッキさえ持っていけばビール代だけの2ユーロで済む。お客がこのデポジット制を知らず、「そのまま帰ってしまったら・・・」との質問に「それは清掃費代として売店がいただく・・・」とのことであった。

ここまで書くと、読者の中には、日本だって昔は、ピールビン、一升ビン、ラムネビンもデポジット制だった。といわれる方も多と思う。また、ポイ捨て防止、資源の有効活用等に役立つなら、「日本でもデポジット制度を導入したら」とのご意見もあると思う。

しかし、日本では、数多くの消費者団体、NPO、地方自治体等の要望にもかかわらず、業界団体の経済的理由〔経費・採算面〕衛生上の問題、代金先払いに対する一般国民の抵抗感等の理由で実現性は薄いの現状である。

(代表 鈴木 克彬)

高層湿原と地球温暖化

私が始めて尾瀬に入ったのは40年くらい前である。そのときの印象がはっきり残っている訳ではないが、尾瀬ヶ原を歩く度に笹原などが広がり、乾燥地化が進んでいるように感じる。高層湿原が維持される主な条件として絶えることのない水分、貧栄養、低温の三つがあげられる。

水分は降水により供給されるが、現在は気象の変化を制御できないのでいわゆる「お天気まかせ」にするしかない。気象学者は温暖化の影響として集中豪雨型の降雨の増加を指摘している。これが高層湿原にどのような影響を与えるのか心配なことである。

貧栄養は植物が雨水のみによって生育することが要件である。これは人間の生活廃水により崩されてしまう。理想を言えば尾瀬盆地の中で人間が生活しないことであるが、せめて生活廃水はすべて尾瀬ヶ原の下流の河川に排水する必要がある。

低温は最も難しい問題である。地球温暖化がそのまま進行すれば数十年後に広大なアマゾンの熱帯雨林が砂漠になってしまうという報告がある。これは現在とあまりにもかけ離れているので実感できないが、日本の米やリンゴの主要な産地が北海道になるという話は納得できる。温暖化に伴って昆虫や動植物が北上を始めているのである。北上できない雷鳥や白熊は絶滅するしかないであろう。尾瀬の高層湿原もこのような状況から離れて存在することはできないわけである。

現在の豊かな自然をそのままの形で後々の世代に引継ぐ。これは日本自然保護協会の基本的な活動理念である。温暖化に伴う自然の変化にどのように向き合うのか。難しい問題であるが、自然保護のためにも地球温暖化防止を進める必要があると考えている。

(自然環境部会 飯塚 紘一)

環境問題への対応は「自立と共生」よりも「自律と強制」が望ましい

福田首相は1ヶ年足らずで辞任してしまったが、総裁選から内閣発足時はキャッチフレーズ「希望と安心」、**「自立と共生」**を多用していた。環境問題に触れる折も**「共生」**を採り上げ、そこでは中国、インド等の新興国での環境改善策を支援し地球規模での共生を訴える意味合いであった。その背景には日本が環境先進国との自負から対応技術の支援が可能との状況判断があるように思える。

しかし、日本からの支援策の主体は40年前の公害防止法とその後のエネルギー規制策等をてこに蓄積された先代の遺産であり、その供与に過ぎない。

今日の環境問題の発生は人口の急増に加え、成長の限界を超えての人間の無節操な経済活動に起因しているので、それを回避(循環可能)・規制する諸施策を促進する必要がある。

それぞれのエゴの交錯する経済活動の抑制は洞爺湖サミットでもしかり、種々のステージにあっても困難なことだが、40年前の日本は無節操・野放図な状態を法規制(=強制)で施策・促進し、対処した。時の行政・政治家の果敢な勇気と国民・産業界の対応努力が環境対応技術として自律的に生き続けている。しかし、昨今の法規制は不明瞭な内容のリサイクル法程度でインパクトも大きくない。喫緊の環境問題への対応は「チーム・マイナス6%」などの自律での対応に任すだけでなく、法規制を主軸に推進すべきと考える。

新総理には環境問題とその対応のために「自律と強制」で臨み、世界をリードする法律の制定・施行に取り組む等、具体的な施策を示してもらいたい。

(広報部会 野村 武彦)

温暖化・エネルギー部会の取り組み

1. 本年度の地域環境学習推進事業として「群馬県における小水力発電の推進について」というテーマで11月に見学会やシンポジウムを計画しています。

小水力発電とは、自然に負荷を与える大型ダムと違い、小さな河川や農業用水などの自然の流れや落差を利用するもので、水量さえ確保できれば24時間稼働している優れた自然エネルギーです。

県内でも、沼田の浄水場、高崎や前橋小坂子の水道水、黒保根利平茶屋の谷川を利用した発電施設が稼働しています。

小水力発電については、水利権の問題や費用の関係もあり、個人での設置となると、まだまだ課題も多いのですが、全国的には長野、富山、山梨など急峻な地形で水量の多い県を中心に推進のための協議会ができています。群馬でも発電量は全国でも先んじており、自治体や企業、そして個人でも導入できるよう、PR活動を推進していきます。

2. 今年は7月早々、梅雨が明けのが早く猛暑も続いたのですが、グリーンカーテンを始めた方々、効果はどうだったでしょうか。今年も秋以降、あさがおやゴーヤの種を集めます(10月以降、収穫した種を分けて下さい) 種子は小袋に入れ、来年イベント等での配布や希望者へ分けたいと思います。

(温暖化・エネルギー部会 小川 仁司)

マイバック運動の行方

環境アドバイザー制度が発足したのが平成4年、平成9年に連絡協議会が立ち上がり、その節私が初代の代表に選ばれたのですが、「環境アドバイザーとは一体何をするのか、仕事はどのような事なのか」と問いかけたが、県の担当者は地球環境改善の為に成る事なら何でも良いという回答で具体的な明示は無かった。しかし200人から300人が組織もなく、ただ登録しただけで、意味がないと考え、発起人の皆さんと相談した結果協議会が出来ました。当初は県内各地区から幹事を選出してもらい運営していましたが、地域の意見の集約と同時に広範囲にわたる環境問題をジャンル別に取り組む必要有ると感じ部会組織を作り今日に至ったものです。その後「マイバックキャンペーン」「グリーンコンシューマー運動」が開始され、全県的な組織の中で特に中心的な役割を果たして来ました。



さて、「マイバックキャンペーン」ですが、これは環境アドバイザー制度と共に全国各都道府県に先駆けて本県で採用され他県からも数多くの見学やら問い合わせが有りました。

しかし同じ事を永年継続する事はそれなりの成果はありますが、一方マンネリ化につながりもう一つ伸び悩みが起きる可能性があります、最近では東京の杉並区や富山県等で「レジ袋の有料化」を打ち出したようです。群馬県でも今までの永い経験と実績を生かし一步前進した取り組みを県や県民に「アドバイス」していかねばならない時に来ていると思います。

前年度通りの思考や行動では間に合わなくなって来たのが、今の世の中では無いでしょうか。地球温暖化など全く人間が経験した事のない現象が発生しています。

強固な信念と斬新な発想が求められている昨今です。一步前進してみましょう。

(前橋 新井 榮一)

涼しくなったら自転車はいかが？

この春、15年乗った自転車を買換えた。普段の足にするだけなので、普通のママチャリ。だけど、新しい自転車は文句なしに嬉しいもの。乗るだけで楽しくなってくる。以来、雨の日と、大きな荷物があるか、よほど時間のない時以外は自転車で出かけるようにしている。前橋高崎間なら1時間もかからないし、何より、渋滞に巻き込まれることがない。私の家は高崎駅に近く、さらに延々と「工事中」が続く渋滞名所のすぐ近く。朝晩のラッシュ時に車で出かけるのはイライラの種だった。でも！自転車ではそんな心配はまったくない。渋滞の車列の脇をすり抜ける、それが今一番の快感かも。

レジ袋を一回断ると、車に乗るのを一回やめるのとではCO2の削減差は？と考えれば、自転車に乗ることは環境にはるかに良い。確かにそれも理由にあるけど、私の場合、今は単純におもしろいから乗っている。新しい自転車を買うと同時に、距離や速度を測れるメーターを取り付けた。この小さな装置をひとつ付け



ただで、俄然おもしろいのである。わぁ～今日は27キロ走った～とか、そんなもので喜んでいるから単純だ。自転車に乗るのは簡単な健康法だし、ダイエット法(だそうだ)。この頃の都会では、退職された方々が自転車乗りになって健康回復しているとか。この秋は心拍計を買って、健康という観点から自転車の良さを実証しようと思っている。皆さんも一緒に走りませんか？

(高崎地区 書記 奈賀 由香子)

南橋の自然観察と環境を守る会

2001年5月に発足して片山満秋会長のもと7年が経過して今年で8年目になります。

前橋の北部南橋地域を中心に「地域に根ざした自然観察会、学習会や河川の清掃活動を通して地域の環境を守っていこう」というのが会の目的です。

生活している身近な地域が活動場所で、地に足が着いた実践活動を行っております。参加は自由参加で毎回30名以上の参加者で活発な活動を行って来ました。

今年は7月に「桃の木川の観察会」を行い、第2回目として9月14日(日)「赤城白川の観察会と河川敷の清掃活動」を行います。第3回目は10月26日(日)「橘山の観察会」で里山の現状と四季の変化の観察会を行います。

これらの活動に対して地域の自治会、公民館、大型店舗、病院に活動の意義を説明し御理解をいただき駐車場等をお借りして行っております。

この7年間で桃の木川の水が綺麗になって河川敷のゴミも少なくなり、地域の住民の方々も環境に対する関心も増してきたと実感しております。我々の小さな活動が少しでも地域の環境を守り住みよい美しい町になって行く手助けになるならばと思っております。

(尚、10月26日の観察会に参加希望の方はそれぞれ当日9時までに青柳町のカインズホームの駐車場、北関東循環器病院の駐車場にお集まり下さい)

(前橋地区 書記 宗 義彦)

2008年夏休み環境教室開催

～工作とCO2 ダイエット法を話し合う～



当協議会は8月21日(木)沼田市上原町区民館において、小学生を対象に「2008年夏休み環境教室」を開催しました。

新聞やFM放送などを通じ、定員25人を上回る参加者がありました。

今回のテーマは、日常生活から地球の未来を考えると、リサイクル工作や木炭電池づくり、そして地球温暖化防止について子どもたちと語り合うことを目的としました。

最初に、3名の部外講師から、子どもたちはノコギリなど工具の使い方を学んだあと、日時計づくりと使用済みの割りばしを用いた壁飾りに挑戦しました。壁かざりには、広告紙で折ったチョウを取り付け、個性豊かな作品を完成させました。工作を通じ、森林の役割や、どんな物でも工夫次第で、新しい物に生まれ変わることを学びました。

エアコンOFFの会場で、子どもたちは汗だくとなりながら、今度は木炭電池づくりに取り組みました。まず、アドバイザーが実演。子どもたちが不安げに見守る中、ぶっつけ本番ながら見事に豆電球が点灯すると、凄いです！木炭が電池になった！とびっくり、場内は大きな歓声に包まれました。これを見た子どもたちは、興味深く木炭電池づくりに挑戦、いとも簡単に成功させたもの、諦めずに頑張るもの、豆電球が点灯したときの子どもたちの興奮の有様は、動画に収める価値が大いにありました。

最後に、アドバイザー手づくりの模型により、地球温暖化の仕組みを説明し、このままCO2が増え続けると、地球は毛布に包まれたような状態になってしまう。そうすると、南極の氷が溶け出したり、異常気象が増えたり様々な影響が表れる。みんなの住んでいる群馬北部では、リンゴに替わりミカンが育つようになるんだ、と話しを進めました。

このあと、子どもたちから、日頃行っているCO2ダイエット法として「シャワーは流しっぱなしにしない」「テレビは時間を決めて見る」「人がいない部屋のスイッチはOFFにする」「マイ・バックを持って買い物に行く」「温水洗浄便座は使用后ふたを閉める」など活発な発表がありました。これを聞いた保護者から、いろいろと教えられることがあり、大人自身の取り組みが大切ですね、と語っていました。

子どもたちの夏休み工作や宿題のお手伝いも貢献することができ、2学期の始った教室にはそれぞれの自信作「壁かざり」や「日時計」が展示されました。また本教室の様子は、沼田市ホームページで紹介されたり、多数の新聞掲載や反響があり、手応えとやりがいのあった地球環境学習推進事業でした。

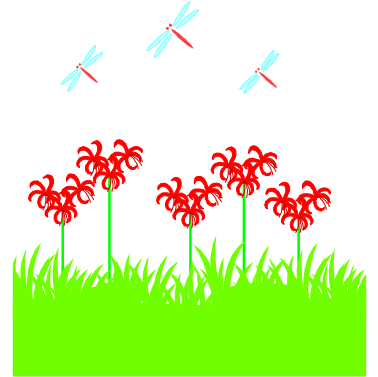
(環境アドバイザー利根沼田連絡協議会 角田 和男)

私の環境出前講座を終わって

きのう8月11日は家の周りを赤とんぼが群れ飛び、昨夜はまだ、細かいコーロギの声を耳にしました。猛暑が続くなかにも、いつの間にか秋がしのび寄っているのでしょうか！

書くことが苦手な私なので、うまくまとまりませんが、今年に入り7月末迄に15回出前講座をさせて頂きました。6月3日に上毛新聞に紹介された事により6月、7月は9回ありました。それぞれ、地域の主催者の皆さんと話し合い「地球にいい事始めよう！」「家庭でできるエコ対策」「地球温暖化、我が家もストップ」「エコロジーで家計費ダウン」「一人のエコが地球を救う！」等とタイトルを決め、手作りの資料や、いろいろな方に教えて頂いた、どこの家にも有ると思われる骨の曲がった傘の布で作ったマイ・バックやアクリル毛糸のタワシ、マイ・箸ケース、節電の為のエコ・タップ等の実物を示し、又風呂敷の色々な使い方など、解かり易くをモットーに話しました。又是非お願いいたしますと言って頂きました。

こうしている間にも温暖化は進み、回を重ねる度に何か背中を押されるような思いと、又別な緊張感でいっぱいでした。後半も公民館等の出前講座を頑張ります。その他で松井田町の中でまだ1か所ではありますが廃食油の回収を毎月1回実施できるようになり、大きな一歩となりました。温暖化ストップに向けての意識啓発の使命を果たして参りたいと思います。



(安中地区 書記 磯貝 享子)

広報ア・ラ・カルト

(情報・話題・連絡・お知らせ etc.)

『早川淵(伊勢崎)の彼岸花』

伊勢崎市境地区に彼岸花の群生地があります。5~6年前に林の下草刈りをしたら咲き出したのでその後手入れをして群生地になったとか。

曼珠沙華(マンジュシャゲ)とも呼ばれ、毒草というイメージが強いのですが、ユリに似た鱗(りん)茎(けい)(球根)は充分水に晒(さら)せば食用になるという実験を以前TVで見たことが有ります。田んぼの畦道に植えられている事が多いのは、その毒を嫌ってネズミやモグラが近付かないようにとの意味合いがあったそうです。

水仙もヒガンバナ科ですが、吉井町にあるカタクリの群生地には夏になるとヒガンバナ科のキツネノカミソリがオレンジ色の花を開きます。

(広報部会 田中 和夫)

今後の行事予定並びに行事報告はインターネット・ホームページ

「ぐんま環境アドバイザーネット」

<http://gadviser.hp.infoseek.co.jp> に適時、掲載されています。

行事予定・報告等の掲載を要望される方は下記の E-MAIL アドレスに連絡ください。

gadviser@infoseek.jp

「グリーンニュース」のバックナンバーもホームページでご覧になれます。